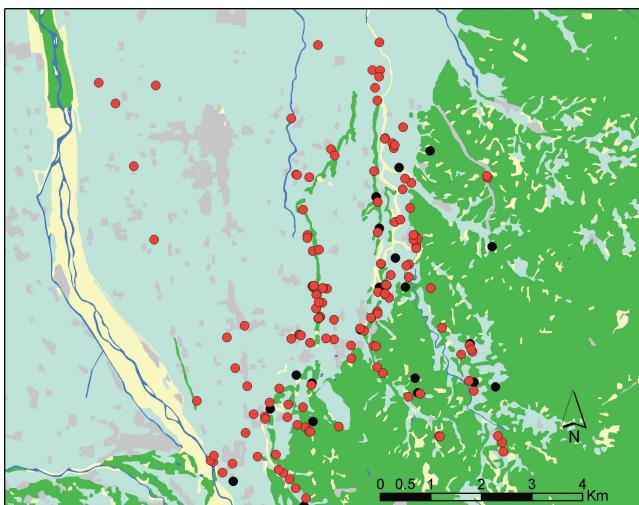


河川敷、用水路などが侵入経路

出没情報と環境情報との分析から、人里に出没するクマは河川敷、用水路、回廊状の森林など、人目につきにくい経路を使って移動していること、また、こうした移動経路や本来の生息地である森林に近いほど出没する可能性が高いことが明らかになりました。

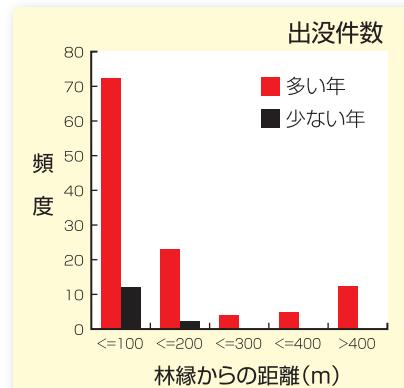
●クマの出没経路を探る



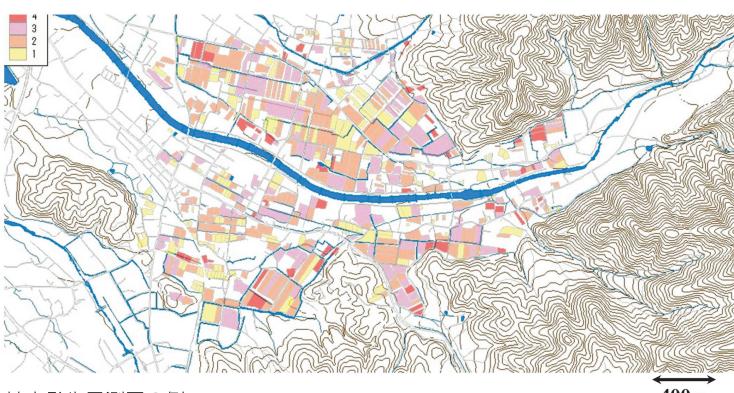
植生タイプ
■ 森林 ■ 水田 ■ 市街地 ■ 河川、用水路など ■ ススキ、ヨシなど
出没地点
● 出没の多い年(2年分) ● 出没の少ない年(2年分)
* 植生タイプ図は「環境省生物多様性センター」運営の「生物多様性情報システム」の情報を用いて作成しました。

クマの出没情報と環境情報を重ね合わせると、出没の際に移動経路などとして利用されやすい環境を推定することができます。北陸のある地域では出没の多い年は、通常の生息域である森林地域から水田地帯へ伸びる回廊状の森林の周囲、また、河川沿いのススキやヨシなどの茂みに沿って出が多いことがわかりました。

また、出没の多い年は、通常の生息地である森林からより離れた場所まで出没していることがわかりました。



●農作物被害が発生しやすい立地を探る



被害発生予測図の例：
濃色ほど被害を受けやすいと予測される圃場を示します。

東北地方のある地域では、出没が少ない年は河川、用水路などや森林に近いところで特定の作物に集中的に被害が発生し、出没が多い年には河川、用水路などに近いところから周囲に被害が拡大していく傾向がわかりました。

この傾向をもとに被害発生予測図を描くことができます。